

【中学校部門 金賞作品】

命の大切さを学ぶ教室に参加して

私は命の大切さを学ぶ教室を終えて、人の命は私達が普段思っているよりもずっと大切なものだという事に気付きました。

私達は「命は大切にしなければならない」と当たり前のように話します。

しかし「なぜ大切なのか」と聞かれてすぐに納得できる答えを、私は出すことができません。

命は一つしかありません。

たとえば、もし私が自分で命を絶ってしまったとしたら何故気づいてあげられなかったのか・・・と家族にずっとつらい思いをさせてしまうし、私が誰かに命を奪われてしまえば、どうして守ってあげられなかったのか・・・と悲しく悔しい気持ちにさせてしまいます。

私がどんな死に方をしてきつと家族は悲しんでくれると思います。

でもそれは、私が悲しませてしまうということです。

大切な人も、大好きな友達もみんな、私が悲しませてしまうのです。

今まで学校では「自殺をしてはいけない」「いじめをしてはいけない」など、してはいけないことを学んできました。

どちらもとても大切なことです。

しかし「してはいけない」と何度も学んでいくことで「してはいけない」が当たり前になっていくぶん、深く考える機会が減っているように感じていました。

そんな中で、この命の大切さを学ぶ教室では「なにかをしなさい」でも「してはいけない」でもなく、命の大切さそのものを学びました。

これが普段学ぶものとは違う、最初から最後まで「大切さとはなにか」を考えさせられるものだったので、いつもよりも自分のためになっていたように感じました。

私は普段、自分は誰かにとって必要であると考えることはありません。

それどころか嫌なことがあればすぐに自分の存在価値を見失ってしまいます。

しかし命の大切さを学ぶ教室を終えて、私が「私はいらないんだ」と思ったり喋ったりするたびに、私を好きでいてくれる全ての人が傷ついて悲しんでくれているということに気が付きました。

命は自分のものですが、その命がこれから先も作っていく生活や人生は、自分だけのものではありません。

沢山の人と繋がってできています。

「命の大切さを学ぶ教室」に参加して、もっと自分を大事にしなければいけないということが改めてわかりました。